

委員名	意見概要
稲庭委員	・ <u>このイメージを実現できれば他にはない公立のミュージアムとなりえるが、運営に携わる人材が重要になる。</u>中核的な専門家や市民との協働が必要になるが、<u>開館前から時間をかけて体制を作っていく必要がある。</u> ・ 今の市民ミュージアムのコレクション（特にその核となるもの）が、現在どのような修復状況であって、<u>新たなミュージアムでどのように活用するのかを考える必要がある。</u> ・ ミュージアムに1年に1回は行く人は、「ミュージアムに行く層」と言えるので、<u>「1年に1回は行きたくなるミュージアム」をめざすという考え方もあるかと思う。</u>そのためには、<u>市民に情報が提供されるミュージアムでなくてはならない。</u>
垣内委員	・ 「基本的な考え方」で挙がっていた「多様な楽しみ方」や「つながり」という点も踏まえられており、今後の道筋が見える内容となっている。市内の既存施設との連携については、<u>連携先のメリットも考えながら事業展開していけると良い。</u> ・ コレクションについては、リアルとデジタルの両面で考える必要があり、<u>修復後のコレクションの活用方法についても議論していく必要がある。</u> ・ コロナ前の世論調査では、ミュージアムには4人に1人くらいしか行っておらず、一部の人が繰り返し行く傾向にある。<u>ミュージアムに行けば「良いもの」ということがわかるので、この経験を積ませることが必要。</u>
齋藤委員 （公募市民）	・ 「<u>非日常</u>」というキーワードは、<u>若者の立場から見るととても良いと思う。</u>最近の若者は休日にリゾートホテルに行ったりお洒落なカフェに行ったり、<u>「特別な体験」を求めている傾向にあると思う。</u> ・ 若者のSNS利用状況を踏まえると、「どんなミュージアムか」ということのほか、「ミュージアムにいる自分」という視点も大事にすると思う。<u>自分が主役になれたり、背景にもなれるような仕組が「敷居の低さ」の実現に必要ではないか。</u>
佐藤委員	・ 「拠点施設」と「まちなかミュージアム」を展開するという提案は面白いと思うが、<u>「まちなかミュージアム」の展示環境をどのレベル求めるかは議論が必要。</u>施設外で展示や貸出を積極的に行うのであれば、それに耐える環境構築が必要となる。 ・ （自身が館長を務める）八戸市美術館では、<u>「こんなに敷居が低い美術館は美術館ではない」という声も少なからずあるので、こういった声を無視して良いのかということも議論の余地がある。</u>
高野委員	・ 資料の内容が必ずしも全て実現できるとは思わないので、<u>この中から何を重視していくのかということを考える必要がある。</u>博物館、美術館を「ミュージアム」として捉えていたことが市民ミュージアムの強みだったので、この点にはこだわってほしい。 ・ 国中から川崎市に関する記録・情報などを集め、川崎市というキーワードで横申しにし、まとめて閲覧できるような場所にすることが川崎市のミュージアムとしてのミッションだと思う。 ・ 鑑賞に偏った形ではなく、<u>生活の一部に溶け込むようなミュージアムであることを多様な視点から伝えていけると良いのではないか。</u>
田中委員	・ 「<u>めざす姿1</u>」（過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム）が、<u>博物、美術にかかわらず、ミュージアムとしての基本の部分であり、最も大事な部分。</u>他の「めざす姿」も納得のいくものとなっている。 ・ 「<u>次に行ったときに新たな発見があるミュージアム</u>」である必要があるのではないか。そのようなミュージアムになれば、期待感や好奇心にもつながると思う。
西川委員	・ 新たなミュージアムのイメージを実現するためには、学芸員だけでは難しく、<u>市民を含めて誰がどの事業を中心になって動かしていくのかなど、今後、基本計画の中で役割分担も整理していく必要があると思う。</u> ・ 「モノ」、「ヒト」だけでなく、<u>体感・体験の取組などの「コト」も考える必要がある。</u>これらが揃うことにより、来館者からの発信・創造など双方向性が生まれ、共感や共創につながる。それが敷居を低く感じさせる取り組みにつながる。 ・ 市民に「<u>自分たちが関わっているミュージアム</u>」という意識を持ってもらうことが大切。開館に向けたプロセスの中から、そういう意識を持ってもらえるような取組をしてほしい。
保坂委員 （公募市民）	・ 「被災の事実の継承・発信」は、このミュージアムならではの特徴なので、上位事業にするなど前面に押し出しても良いと思う。 ・ <u>ミュージアム内のカフェやレストランが充実していると、休日に家族で過ごすときの「ついで」の利用につながり、足を運びやすくなるのではないか。</u>
八木橋委員	・ 新たなミュージアムのイメージはとても可能性を感じるものになっているが、<u>これを支える基本機能（収集・保管、調査研究、展示）や「モノ」、「ヒト」という点をどのように考えているかが見えてこない。</u> ・ ミュージアムにはまず基本機能があって、そこから教育普及や文化財保護につながっていくため、市民が喜ぶ部分ではないかもしれないが、とても重要。

第2回懇談会における新たなミュージアムに関する委員意見のキーワード

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------|-------------------|
| ① 中長期的な視点での管理運営体制、人材育成 | ② 市民ミュージアム収蔵品の活用 | ③ ミュージアムに対する「経験知」 |
| ④ 「まちなかミュージアム」の展開可能性（展示環境等の懸念） | ⑤ 注力すべき事業（取組）の選定 | ⑥ ミュージアム基本機能の重要性 |
| ⑦ 「モノ」、「ヒト」、「コト」の具体化 | ⑧ 市民の意識醸成（新たなミュージアムの自分ゴト化） | ⑨ 「ついで」の利用の意識 |

2 新たなミュージアムの「使命」、「めざす姿」(案)について

- ・「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」(令和3(2021)年11月策定)のほか、第1回懇談会の意見聴取内容及びこれまでの関係団体ヒアリング等から得られた検討ポイントを踏まえ、新たな博物館、美術館それぞれで整理していた「使命」、「めざす姿」(草案)について見直し、**融合した「ミュージアム」としての「使命」、「めざす姿」として再整理した。**
- ・再整理にあたっては、**川崎のミュージアムとして「川崎らしさ」を持つ施設を目指すため**、「市民創発」(※)による活発な市民自治の取組をはじめ、7つの区が持つ多様なポテンシャルや地域資源を有していること、多様な価値観を認め合い、多文化共生社会を育んできた土壌があること、若者が多く、新鮮で活気がある都市であることなど、**川崎が持つ特徴の中でもミュージアムの活動に活かせると考えられるものを踏まえ**るとともに、市民ミュージアムがこれまで展開してきた活動等も念頭に置き、**新たなミュージアムが市民に何をもたらすことができるのかを意識しながら検討を行った。**

※ 市民創発 … 様々な個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有・共感することで生まれる相互作用により、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出すること(「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(平成31(2019)年)3月策定)で定義)

新たなミュージアムの「使命」(案)

新たなミュージアムの「使命」

市民とともに川崎の**100年**を辿り
これからの**100年**を彩る



- ・都市化して大きく発展した川崎の歴史を、**市制100年を中心にこれまでを振り返り、これからの100年をより豊かにしていくための創造の拠点**として新たなミュージアムを位置づける。
- ・川崎の文化芸術の魅力が詰め込まれた**モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ**ことで、川崎のこれからを切り拓く礎である市民の考える力や協働する力を育て、よりよい地域づくりに貢献する。

新たなミュージアムの「めざす姿」(案)

博物館、美術館が真に融合したミュージアムとして活動する

～市民の日常生活の中にありながら、市民が「非日常」を体験・体感できる先進的なミュージアムをめざす～

1 過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム

- ・過去だけでなく、日々変化する現在の川崎の姿を捉え、紐解き、未来を考えるための素材として活用するとともに、川崎ゆかりの作家やその作品、まつわる資料などを文化芸術として育て、未来につなげていくミュージアム

2 モノとヒト、ヒトとヒトをつなぎ、交流・共創するミュージアム

- ・モノを媒介にした体験や対話を通じ、世代や文化を超えて市民や関連施設、団体など多様な主体をつなぎ、交流するとともに、文化芸術の価値を活用した新しい文化や事業を共創するミュージアム

3 日常と文化芸術をつなぎ、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム

- ・市民の多様なレベルの創作・鑑賞等のニーズに応え、探求心や表現活動を支えるサービスを提供するとともに、誰もが文化芸術活動に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりを行い、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム

4 既知と未知をつなぎ、ともに成長するミュージアム

- ・ミュージアムをはじめ、市民や企業など多様な主体が持つ知見を活用し、相互対話により未来を共創する活動につなげ、地域への愛着や文化的感性、多様性の理解を育むとともに、地域的、社会的課題に向き合い、ともに成長するミュージアム

5 地域社会の担い手となる人材を育成するミュージアム

- ・博物、美術が融合した企画や地域に開かれた活動を通じて、モノとヒトをつなぐ専門人材や、ミュージアムと協働し、ともに成長する人材など、地域社会の担い手となる人材を育み、好循環を生み出すミュージアム

新たなミュージアムのイメージ（案）等について

3 新たなミュージアムのイメージ(案)について

- ・新たなミュージアムの「使命」、「めざす姿」の実現に向け、**驚きや発見があり、市民に期待感や知的好奇心を抱いてもらえるような施設を目指し**、次の「新たなミュージアムのイメージ（案）」を基に、取り組むべき事業とその展開の方向性を検討していく。
- ・新たなミュージアムについては、融合したミュージアムならではの活動のほか、これまで市民ミュージアムが収集してきた資料・作品の活用や令和元年東日本台風による被災の事実の継承・発信など、市民ミュージアムの特徴・背景を踏まえた活動を検討するとともに、本市の関連施策との連動も念頭に置き、検討を進めていく。

(1) 新たなミュージアムのイメージ（案）

- ・**拠点となる「ミュージアム」施設を整備する**ほか、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりに貢献するため、**市内で「まちなかミュージアム」の活動を展開する。**

ミュージアム（拠点）

【イメージ】

一か所に集約しなければ実現できない機能（※1）や
まとまった空間でしか実現できない機能（※2）を集めた
拠点施設として整備する。

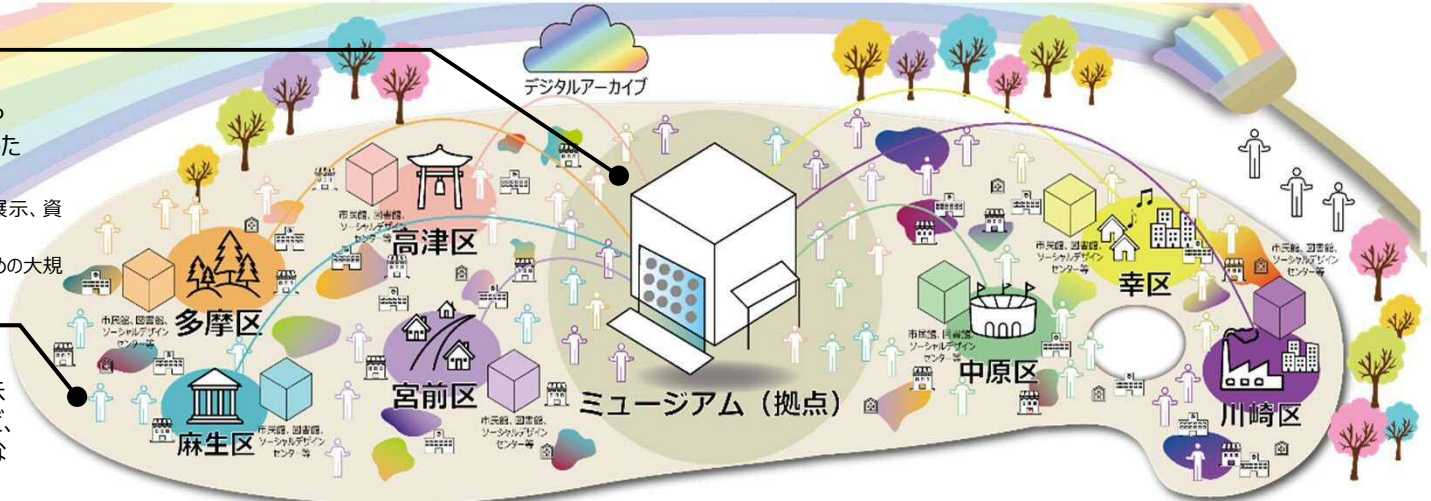
※1…（想定機能例）市全体のあゆみを通史的に紹介する展示、資料修復施設、ライブラリーなど

※2…（想定機能例）大型収蔵庫、創作活動やイベントのための大規模な屋内空間など

まちなかミュージアム

【イメージ】

各区の学校や病院、店舗などにおいて、作品の展示
や収蔵資料の貸出、アウトリーチプログラムを行うなど、
7区それぞれの特性やその地域性を踏まえた「まちなか
ミュージアム」活動を展開する。



(2) 新たなミュージアムで取り組むべきと考える事業とその展開の方向性（案）

1 収集・保管、調査研究、展示

収蔵資料を、過去、現在の川崎
の姿を捉え、紐解き、未来を考える
ための素材として活用する

《事業イメージ（案）》

- ・既存のコレクションや市ゆかりの作家の作品など、川崎の特色がある資料・作品の効率的な活用
- ・デジタルミュージアムの推進
- ・博物館、美術が融合した展示
- ・体験型の展示
- ・被災の事実の継承・発信

など

2 交流創出

博物館、美術の枠を超えた交流を創
出し、多様性の理解を育み、新たな
価値や発想を生み出す

《事業イメージ（案）》

- ・市民と作家や学芸員との交流を創出するための取組
- ・学校とミュージアムとの交流を創出するための取組
- ・企業とミュージアムとの交流を創出するための取組
- ・多様な分野の交流を創出するための取組

など

3 支援・促進

市域の文化芸術を、誰もが身近な
ものとして楽しみ、親しみながら携わ
ることができる活動を展開する

《事業イメージ（案）》

- ・文化芸術を身近に感じてもらうための取組
- ・障害のあるなしに関わらず、誰もが文化芸術に親しむための取組
- ・市民の文化芸術活動支援のための取組

など

4 未来思考・未来創出

市民の自ら思考する力を養い、とも
にまちと主体的に関わり、地域的、社
会的課題に取り組む

《事業イメージ（案）》

- ・先端技術を活用した、楽しみながら文化芸術に携わる取組
- ・文化芸術を活用し、地域的、社会的課題の解決に貢献する取組
- ・博物館、美術の分野を横断し、新たな魅力を発信する取組
- ・知見を活用し、新たな作品の制作につなげる取組

など

5 人材育成

市民の好奇心や探求心を深め、主
体的に学ぶ気持ち呼び起こし、地
域社会の担い手となる人材を育成す
る

《事業イメージ（案）》

- ・モノとヒトをつなぐミュージアム運営の専門人材を育成する取組
- ・ミュージアム利用者が地域社会の担い手となるような好循環を実現するための取組
- ・市民ファシリテーターの育成やボランティアの参加を促す取組

など